

御 殿 場 市 工 業 用 水 道 事 業

アセットマネジメント

平成 28 年 3 月



御 殿 場 市

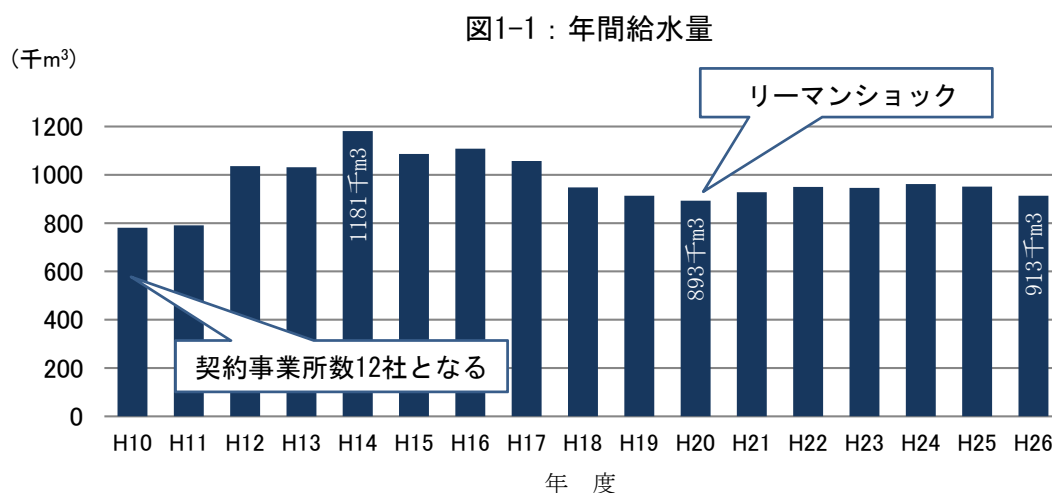
目 次

1. はじめに	3-1
2. アセットマネジメントについて	
2.1 アセットマネジメントの定義及び効果	3-2
2.2 アセットマネジメントの検討期間	3-2
2.3 アセットマネジメントの実践手法	3-3
3. 必要情報の整理及び検討手法の決定	
3.1 必要情報の収集・整理	3-5
3.2 検討手法の決定	3-7
4. ミクロマネジメントの実施	
4.1 工業用水道施設の機能診断	3-8
4.2 工業用水道施設の重要度に応じた耐震基準	3-11
4.3 主要な施設の重要度及び仕様	3-14
5. マクロマネジメントの実施	
5.1 資産額の変遷	3-16
5.2 資産の将来見通しの把握	3-21
5.3 更新需要の算出	3-26
5.4 長期財政収支の検討	3-44
6. 今後の課題	3-60

1. はじめに

御殿場市工業用水道事業は、昭和 60 年に計画一日最大配水量 7,500m³として創設され、昭和 61 年 3 月から本市駒門工業団地内に給水を開始した。給水開始時は 4 社だった契約事業所数も、平成 10 年度以降 12 社にまで増え、現在 1 日当たりの契約水量は 4,343m³/日となっている。

近年の年間総給水量は、社会経済情勢の変化等により増減を繰り返しているが、総体的には減少傾向を示している。平成 26 年度実績では 912,940m³ とピーク時の 77.3%まで減少している。



こうしたなか、本市上水道事業では平成 25 年度に水道ビジョンの見直しを行い、この中で工業用水道施設についても今後の計画を打ち出している。具体的には管路の耐震化事業がその中心ではあるが、景気低迷による契約事業所数の減少を想定した場合、更新費用の確保が今後の課題となってくる。

このため、長期的な視点に立ち効率的かつ効果的に工業用水道施設を管理運営することが必要不可欠であり、これらを包含するアセットマネジメント（資産管理）の実践が本市工業用水道事業にも求められている。

アセットマネジメントの実践は、中長期の更新需要と財政収支の見通しにより、施設更新とその資金確保に向けた取り組みがより明確になり、さらにこの継続的な実践により健全な工業用水道の持続につながる事となる。